

国語科

1 出題の傾向・特徴

共通	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な言語活動を通じた学習場面を設定し、その中で表現したり理解したりする言語能力及びその活用力を問う問題となっている。(日常・社会生活に生きてはたらく言語能力の具体化) ○ 学習指導要領：目標にある「相手や目的に応じ」「目的や意図に応じ」に基づき、目的や相手、意図に応じた状況設定が具体化された問題が多い。(より実用的な場面設定) ○ 言語や言語文化に関する知識・技能を身に付け、適切に用いる基本的な問題を設定している。 ◆ 設問ごとの条件や説明等の情報量が多いため、状況を把握する力(作問の意図を理解する力)が必要である。(問題自体の難易度は高くなくても、問題に関わる設定・意図把握に時間がかかる)
小学校	<p>〔A：主として「知識」に関する問題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実際に授業場面で取り組む基礎的な言語活動の中で活用できる知識・技能を問う問題。 (図から必要な情報を取り出す 調べたことを箇条書きに整理する 簡潔に一文にまとめる 等) ○ 文章、資料、記録から目的や意図に合ったキーワードを適切に捉える力を問う問題。 (ねらいに応じた質問メモ 音読の仕方 創作物語の推敲の意図 等)
中学校	<p>〔B：主として「活用」に関する問題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科・領域や日常生活で活用できる言語能力を問う問題。 (依頼する手紙の書き方 話し合いの仕方 多様な紙面からの目的に応じた読み取り方 等) ○ 「読解力指導資料」の観点と関連した力の育成をめざし、自分の考えを自由記述形式(字数制限有)で書き表す問題。(意図を捉える、2つの項目や立場を対比させて考える 等)
中学校	<p>〔A：主として「知識」に関する問題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「話す・聞く」「書く」「読む」各領域にわたり、言語活動に取り組むときの基礎的な知識・技能に関わる問題。 (資料を活用した発表 手紙の書き方 図を用いた説明文 スピーチ 等) ○ 文章を読む視点としての基礎的な知識・技能を問う問題。 (文学的文章における比喩表現 説明的文章における目的や展開に即した読み 等)
中学校	<p>〔B：主として「活用」に関する問題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 明確に設定された相手、目的、意図に応じて重要な情報を読み取り、必要事項を選択、整理し、自分の言葉で分かりやすく書き表す力を問う問題。(複数の領域に関わる総合的な力) (対談に関する意見 相手に応じた使用説明書の書換え 等) ○ 物語文の展開や特徴を的確に読み、根拠をもって自分の読みを表現に生かすことを問う問題。

2 授業改善の視点

※〈 〉：「充実した授業づくりのために」との関連

- **効果的な言語活動を位置付けた指導構想の工夫** (実態と目標を踏まえた指導構想) (意図的な習得、活用、探究の取り組み)
言語活動を通して指導内容を身に付けさせることが重視される国語科の授業においては、子どもたちが意欲的・主体的に学習に取り組む中で目的達成につながる言語活動を効果的に位置付けることが求められる。設問においても多様な言語活動の具体的場面で「活用できる」言語能力が取り上げられている。そのため、子どもの実態や学習目標を踏まえて、実際に効果的な言語活動を位置付けた指導構想を工夫することが重要になる。その際、他教科・領域や行事等との関連も考慮したい。
- **考え、表現する、学び合う学習活動の重視** (自分の考えをもたせる場の工夫) (効果的な「学び合い」による「思考の共有と吟味」)
記述式の設問が多く設定されていることから、課題に対する自分の考えをもつこと、そして、説明したり伝えたりする表現力を育成することが重要となる。そのために、授業において自分の考えをもてるような指導、互いに考えを伝え合い、思考の共有と吟味を行える効果的な学び合いとなる指導を行っていくことが大切である。

※ 質問紙に「国語の授業で『目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている』『意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している』『自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている』『文章を読むとき、段落や話のまとめごと内容理解しながら読んでいく』の4点、学びの姿に関する項目がある。国語の授業においては、この4点についても具現化していくことが重要となる。